

---

# 蝉と夏の奇跡 後日談

音無 無音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

蝉と夏の奇跡 後日談

### 【Nコード】

N9974U

### 【作者名】

音無 無音

### 【あらすじ】

奇跡が起き、退院をし、彼女と夏祭りに行くことになった。そこで  
この会話は？

**（前書き）**

（付け足し忘れがあったのでここで）

重い重いあの病氣も何もなかったかのように俺らは今のこの場  
．．．．．祭りの会場にいた。

ワイワイと賑わう。

屋台も出てるし、浴衣の人もたくさんいる。

花火が上がる時間までまだあるみてえだな．．．．。

俺はこの会場にある一番大きい木の下にいた。  
所謂待ち合わせ場所ってやつだ。

それにしても女子ってこんなに遅いもんか？

きよろきよろと当たりを見渡す。

そんなとき

「かぁーつとくんっ」

「うぉぉぁ！」

不意を突かれ呼ばれる俺の名前。

「び、びつくりしたぁあ．．．．」

「それはこっちのセリフだよぉ！」

．．．．．。

俺は横目で彼女、みつきの容姿に目をやる。

水色ベースの浴衣。

所々に水玉のような柄がある。

「．．．．．可愛いな」

「え？」

なんだこの女。

恥を忍んで言っっちゃったのに。

「え？えへへー。ありがとっ！」

俺も着てくりゃよかった。

「かつと克くんも着てくればよかったのに」

「ぬ．．．．．」

絶対似合うよ、と彼女は微笑んだ。

「そ、そうだ！もうそろそろ花火始まっちゃうね」

「ん。見晴らしのいい丘にでも登ろうぜ」

「いいねっ」

俺らは手をつなぎ丘へと足を向けた。

「ねえ、そうだ。あの日。

セミで聞こえなかったけどなんて言ってたの？」

「・・・・・・・・・・ああ」

俺はぼりぼりと頬を掻いた。

俺らの後ろではパーンパーンと花火が綺麗に花を咲かせている。

「ねえ？」

と焦らす彼女の肩を掴む。

そつと俺は彼女に顔を近づけた。

「・・・・・・・・・・！」

唇が触れ合う感触。

「好きだぜっていったんだよ」

「・・・・・・・・・・んもう！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9974u/>

---

蝉と夏の奇跡 後日談

2011年10月3日11時15分発行